

行田市都市計画マスタープラン策定

地域別懇談会

西部	11月19日(土) 10時～12時
中心部	11月19日(土) 15時～17時
北部	11月20日(日) 10時～12時
南東部	11月20日(日) 15時～17時

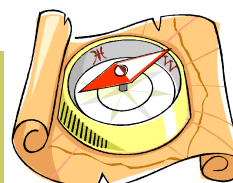


1. 行田市都市計画マスタープラン策定について

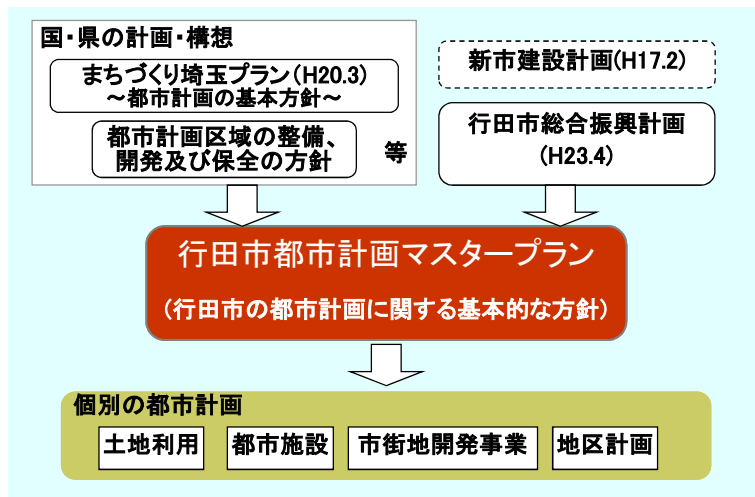
1) 都市計画マスタープランとは

- 都市計画法第18条の2に定める「市町村の都市計画に関する基本的な方針」のこと。
- 市の長期的なまちづくり及び都市計画の総合的な指針を示すもの。

市が目指す、20年後の将来像を明確に示しながら、都市計画に係わる施策を総合的かつ体系的に展開するものであり、市の都市計画の「羅針盤」の役割を担うもの。



2) 都市計画マスタープランの位置づけ



2

3) 新たな都市計画マスタープラン 策定の視点

今後の都市構造のあり方を見据えた計画づくり

- ・人口減少・少子高齢化の進行
- ・コンパクトシティの考え方への転換
- ・南大通線の市街化調整区域による分断
- ・中心市街地の空洞化や商業の衰退
- ・地域コミュニティの維持

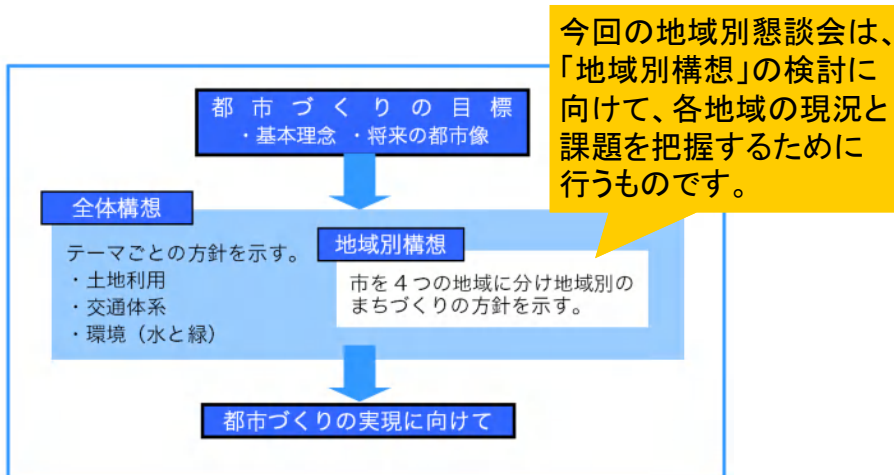
「絵に描いたもち」では終わらせない計画づくり

- ・共感できる将来のまちの姿を示す
- ・実現に向けたプログラムを示す
- ・市民と行政の協働により策定する

市民参画による「暮らしの視点」を生かした計画づくり

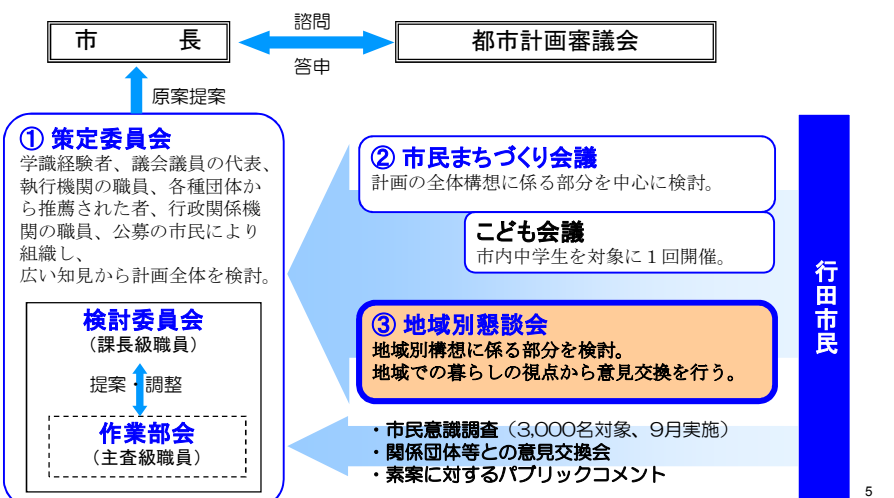
- ・主役である「市民」の感覚や思いを形にする
- ・身近な地域資源や地域特性をいかした計画をつくる
- ・まちづくりの担い手を育てる

4) 都市計画マスタープランの構成



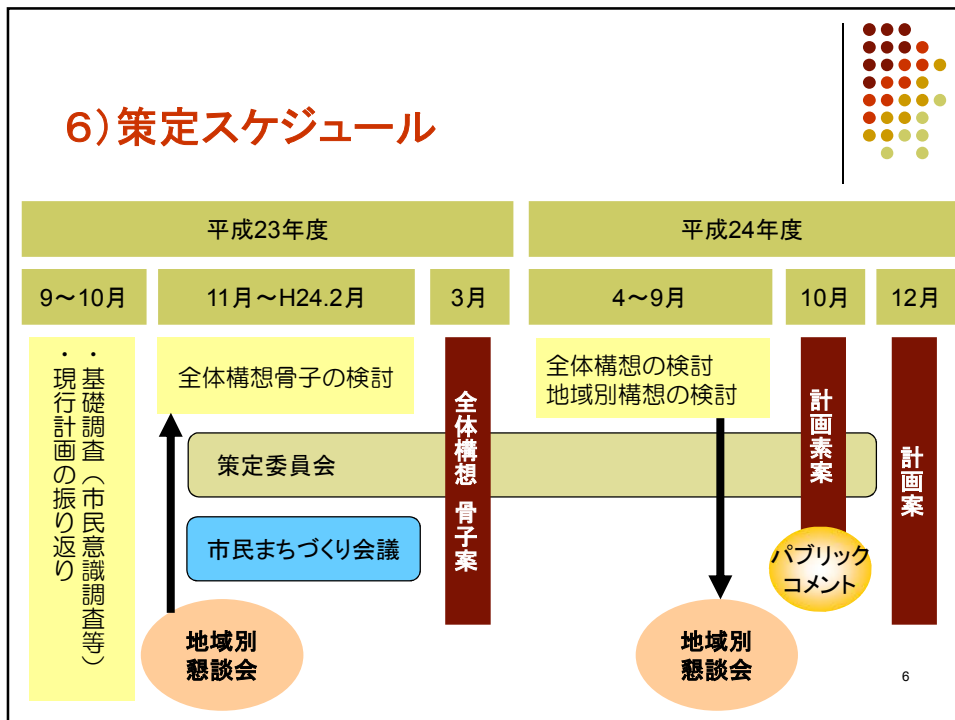
4

5) 都市計画マスタープラン策定の進め方



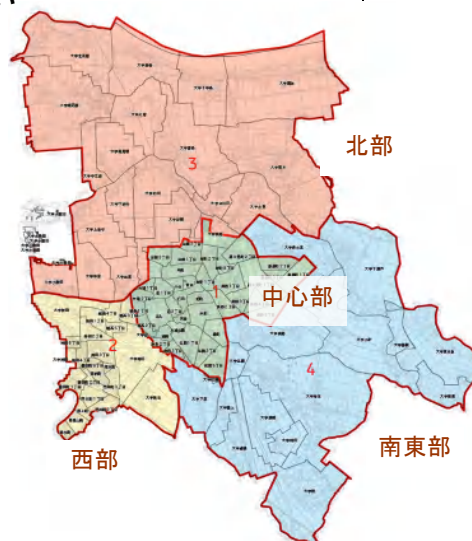
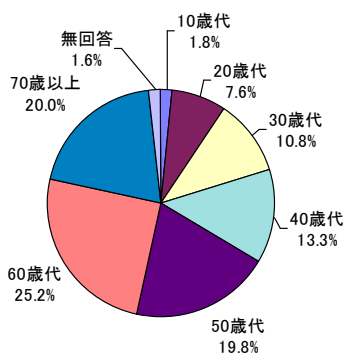
5

6) 策定スケジュール



2. 市民アンケート結果概要

- 実施期間：平成23年9月～10月
- 対象者：市に住民登録されている18歳以上の方の中から、無作為に約3,000人を抽出
- 回収数 1,132票
- 回収率 約4割



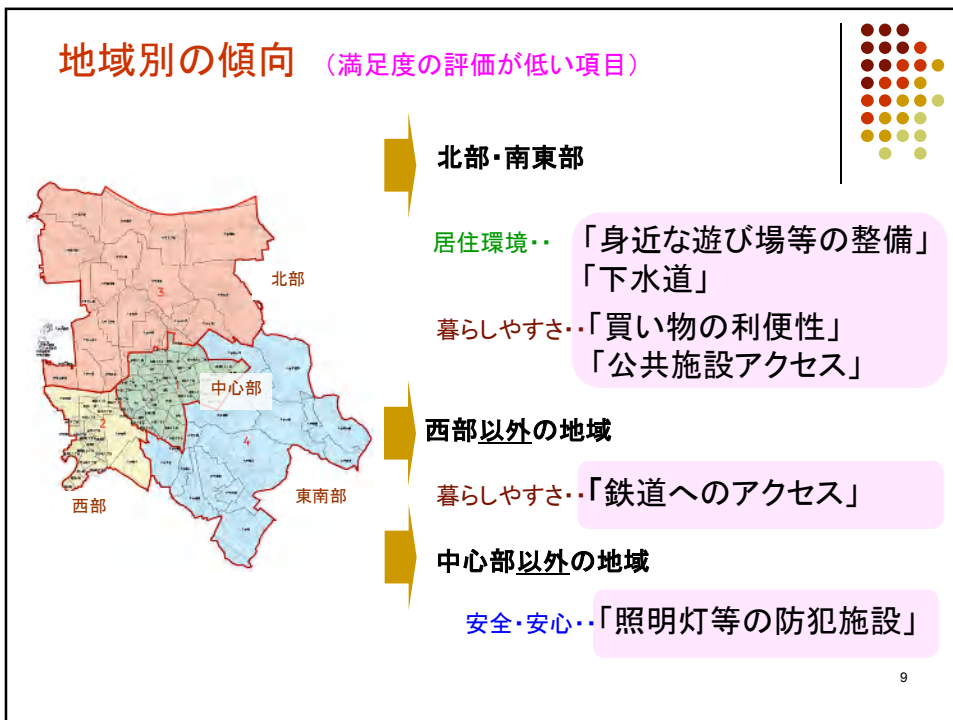
問 現在お住まいの地域について

1) 居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ●日当たりや風通し ●宅地の広さやゆとり ●音や振動などの静けさ ●下水道やし字溝などの排水施設の整備状況 ●身近な遊び場や公園の整備状況
2) 暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ●生活道路の整備状況 ●幹線道路の整備状況 ●日用品の買い物の利便性 ●公共交通（バス・鉄道）の利便性 ●公共施設へのアクセスのしやすさ ●鉄道へのアクセスのしやすさ
3) 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ●信号機、ガードレールなどの交通安全施設 ●地震や風水害などへの防災対策 ●照明灯、防犯灯などの防犯施設 ●地域での防犯・防災の取組み
4) ゆとり、 うるおい	<ul style="list-style-type: none"> ●緑や水など自然の身近さや豊かさ ●集落や田園などの農村風景の美しさ ●住宅地や沿道などの街並みの美しさ ●歴史的建造物や文化財などの保全・活用
5) コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館などのコミュニティ施設の整備状況 ●地域の交流 ●高齢者や子どもに対する地域での見守り活動

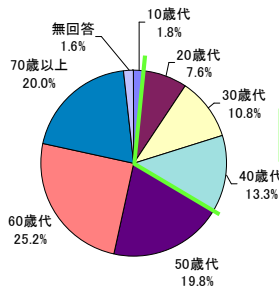
「満足」「ほぼ満足」
の評価が
半数を上回る項目

●「不満」「やや不満」
の評価が
半数を上回る項目

8



年代別の傾向



20
〜
40代の「子育て世代」

「身近な遊び場や公園の整備状況」「公共交通(バス・鉄道の利便性)」「照明灯、防犯灯などの防犯施設」など、**通勤や子育て**に関連する項目で極端に満足度が**低い**。

「緑や水など自然の身近さや豊かさ」「住宅地など街並みの美しさ」「歴史的建造物などの保全・活用」など、**生活にゆとりやうるおいを与える環境や文化**に関連する項目で満足度が**高い**。

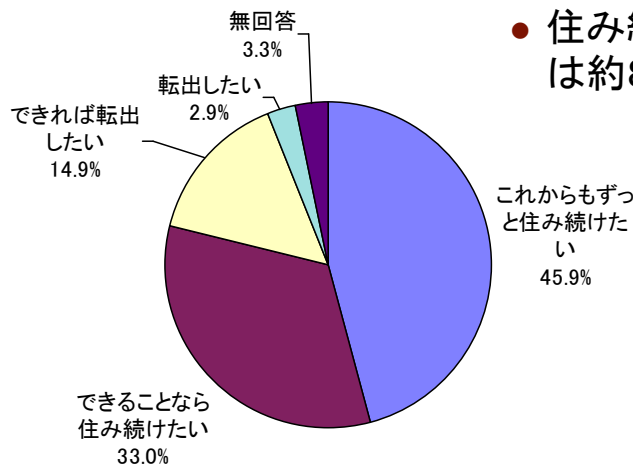
男女別の傾向

「幹線道路の整備状況」「街並みの美しさ」「歴史的建造物などの保全・活用」「地域の交流」

の項目で、**女性の満足度が特に高く**、環境・文化面だけではなく、暮らしを支える**都市基盤や地域コミュニティへの関心の高さ**が伺える

10

問3 現在お住まいの地域に住み続けたいか

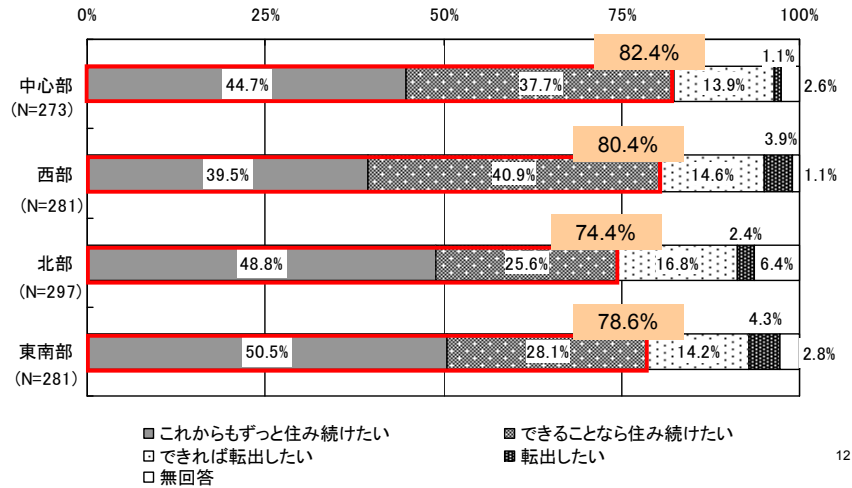


● **住み続けたい人は約8割。**

11

地域別の傾向

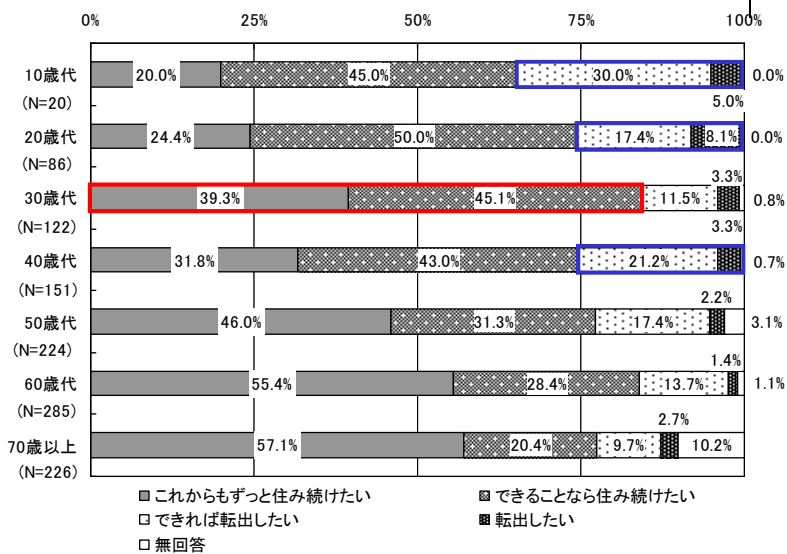
- 中心部が約82%と最も高く、北部が約74%と最も低い。



12

年代別の傾向

- 40歳代以下の転出意向が高い中で、30歳代は定住意向が比較的高い。



13

問7 これまでのまちづくりの取り組みに対する評価



- 「景観の形成」は高評価（満足している人は約57%）
- 一方、「生活環境の改善」は低評価（不満を感じている人は約55%）

